

2021
年度

さつま皮膚外科塾 を開催しました

2021年4月3日、鹿児島医療センターで臨床研修を行なっている研修医を対象にさつま皮膚外科塾を開催しました。この講習会は「組織へのダメージを最小限にした、整容性に優れた縫合手技」の習得を目標にしたもので、2015年からジョンソン・エンド・ジョンソン（株）の共催のもと毎年開催してきました。しかし残念ながら昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で開催は見送られました。今回は感染症対策を施した上で、例年通り実習形式で講習会を開催することができました。



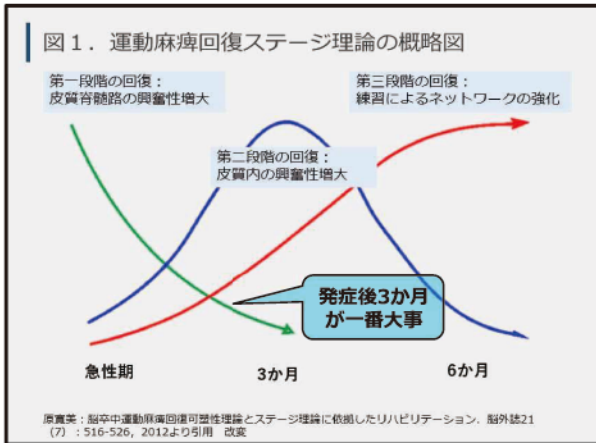
まず松下茂人（皮膚腫瘍科・皮膚科部長）の開催挨拶に続いて、真皮縫合の基礎やコツについての講義を行いました。動画及び実演で手指の動きを解説した後、参加者全員が豚皮と4-0 PDS IIを使って真皮縫合の練習を行いました。創縁を外反させるには縫合針をどこに刺入するか、どういった軌道で運針するか、どの方向に力をかければ針が曲がらずスムーズに動くのか、など、講師がひとりひとりに指導しながら実習を進めていきました。基本的な縫合に慣れてきたら、鑷子だけでなくスキンフックを用いて皮膚をコントロールするなど、より愛護的な縫合手技についても学びました。さらに後半では応用編としてZ形成や菱形皮弁などの局所皮弁についても解説し、実際に自分で皮弁を動かすことで拘縮が解除される様子を実感してもらいました。参加者のみなさんは非常に集中されており、あっという間に2時間が経過しました。実施後のアンケートでは、満足点として実際に豚皮を使って縫合の実習ができたこと、Z形成で皮弁の動きを実感できたことなどが挙げられており、好評な結果を得ることができました。

コロナ禍が続く中での開催となりましたが、今回も多くの初期臨床研修医に参加していただきました。縫合は簡単そうに見えて奥が深いものですが、今回のさつま皮膚外科塾が研修医のみなさんのこれからの診療にお役に立てることを祈念します。最後に、今回無事に開催することができましたのは、院内各部署及び共催、後援各所のご協力の賜物です。末筆ながらこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

(文責：皮膚腫瘍科・皮膚科 レジデント 坂本 翔一)



脳卒中リハにおける運動麻痺回復ステージ理論



脳卒中急性期リハビリテーションでは上図のように第1段階の回復時期に適した訓練を実施する必要があります。第1段階の回復時期では残存している皮質脊髄路を刺激しその興奮性を高めることにより麻痺の回復を促進する時期となり、その興奮性は急性期から急速に減衰して3ヶ月までに消失すると言われています。当院では適応患者様には病態を考慮した上で主治医へ確認し早期離床、反復的練習を実施しています。

(作成者：理学療法士 喜久川 正人)

脳卒中を発症しないためには…？
生活習慣の見直しをしてみましょう

- ・手始めに **高血圧**から 治しましょう
- ・**糖尿病** 放っておいたら 悔い残る
- ・**不整脈** 見つかり次第 すぐ受診
- ・**タバコ** 予防には タバコを止める 意志を持って
- ・**アルコール** 控えめは薬 過ぎれば毒
- ・高すぎる **コレステロール**も 見逃すな
- ・お食事 **塩分・脂肪** 控えめに
- ・体力に あった**運動** 続けよう
- ・万病の 引き金になる **太りすぎ**
- ・**脳卒中** 起きたらすぐに 病院へ

「番外」
お薬は
勝手にやめず
に相談を



これは、日本脳卒中協会が脳卒中予防啓発を目的に脳卒中予防10か条を作成されています。脳卒中後も再発を防いで生き活きた人生を送るために作成されたそうです。脳卒中を発症しないためにも、私達自身も自らの生活習慣を見直しをしてみましょう！

脳卒中かな？
と思ったら
すぐに病院へ!!
のサイン

F Face にごっこり笑うと口や顔の片側が歪む

A Arm 手のひらを上に両手を前方に上げ、5つ数える間に片方の腕が下がる

S Speech 「今日は天気がいい」がうまく言えない

T Time これらの3つのチェックのいずれかが異常なら脳卒中が疑わしい

FAST
スケール
おさらい!!

(作成者：看護師 箱丸 友香)

鹿児島医療センター
AIS新聞

AIS:acute ischemic stroke
急性虚血性脳卒中

※今回は各コメディカルの先生に記事の作成を依頼しました

栄養士による
減塩レシピ!

減塩豚汁(ケチャ汁)



◆材料(4人分)

材料	分量	材料	分量
豚肉こま切れ	120g	ゴマ油	大さじ1(12g)
人参	60g	ケチャップ	大さじ2(36g)
長ネギ	80g	麦みそ	大さじ2(36g)
ごぼう	100g	水	4カップ(800ml)
小ネギ	適量		

Point

◆作り方

1. 人参は2mm半月切り、長ネギはななめ切り、ごぼうはさがきにします。
2. 鍋にゴマ油を熱し(中火)、豚肉、野菜、ケチャップを入れて炒める。
3. しんなりしてきたら水を加え、弱火にし野菜が柔らかくなるまで煮込む。
4. 野菜に火が通ったら火を止め、味噌を溶かして完成！(盛り付け時に小ネギを散らす)

栄養価(1人分)

エネルギー	135kcal
たんぱく質	7.2g
脂質	6.2g
炭水化物	12.2g
食塩相当量	1.3g

当院で提供している味噌汁と同じ食塩相当量です。

かつお、昆布でだしをとるのは面倒…といった方向けのケチャップでトマトのうま味を活かした減塩メニューです。
加熱すると酸味がとぶためほとんどケチャップの味を感じなくなります。
 味が物足りない…と感じる方は味噌を足さず七味唐辛子等をいれると減塩のまま美味しく食べられます。やってみそ!(^^)♪

(作成者：栄養士 菊樂 祐太)

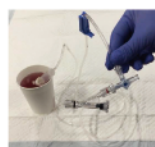
2020年度
血行再建術
治療成績

職員のみなさまにはとてもお世話になりました。2020年4月～2021年2月で血行再建術を行った症例は**52例**でした。まとめた結果を一部提示させていただきます。

治療関連時間	～再開率, 転帰～	再開率, 転帰	
		自施設	国際研究
穿刺-再開通, 中央値, (IQR)		45 (35-62.5)	63
再開通率	≥有効再開通, %	85.7	71.0
転帰	退院時mRS 0-2, %	31.0	
	3か月後mRS 0-2, %	42.9	46.0

海外の国際試験と比較をしても結果は劣らない治療成績となりました。来年度もご協力の程、よろしくお願いいたします。

現在新しい取り組みとして、動画による学習効果を狙い**DEPAISの準備を動画にし、SNSに乗せました。ぜひ、携帯で見てください。**



YouTubeにて
限定公開中!

(作成者：脳血管内科 濱田 祐樹)

職場紹介

【東5階病棟】

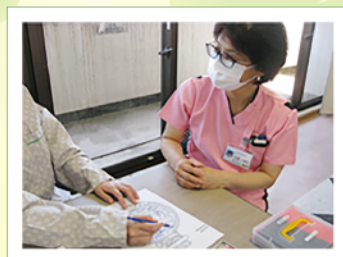
東5階病棟は、脳血管内科・脳神経外科を診療科としており、SCU9床を有する定床50床の脳卒中専門病棟です。ホットラインにて夜間や土日・祝日を問わず24時間体制で救急患者を受け入れ、鹿児島県内の脳卒中医療の中核施設として、超急性期・急性期に対する治療・看護を行っています。救急外来にて迅速な診断・処置が行われ、その後はSCUで脳卒中発症直後の集中治療を行い、病状が安定した患者さまは、同じフロアの一般病棟へ移ることで、急性期から回復期、維持期へと切れ目のない継続したケアを行います。主な疾患は、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、頭部外傷、一過性脳虚血発作等があります。その他にも、めまい症や頭痛、痙攣発作などにも対応しています。治療としては、血栓溶解療法（t-PA）や血栓回収療法、コイル塞栓術、脳動脈瘤頸部クリッピング術などが行われています。できるだけ早く脳に血流を再開させるためには迅速な対応が不可欠であり、医師、看護師、看護助手、クラークの病棟スタッフと共に、リハビリテーション科、薬剤部、栄養管理室、医療ソーシャルワーカー、医師クラークなど、多職種でチーム医療を行っており、活気ある病棟です。また、地域の他施設との連携も強化しており、患者さまの早期回復、早期退院へ向けて日々支援を行っています。

看護師は、一般病棟とSCU間で常に連携しており、脳卒中急性期の全身管理及び術後管理を行っています。脳卒中疾患では、意識障害や手足が動かしにくい、言葉がうまく話せないなど、生活していくうえで大事な機能が低下することが問題となります。そのため、患者さま・ご家族の不安に寄り添い、安心してその人らしく過ごせるような関わりを意識し看護を実践しています。さらに、摂食嚥下、口腔ケア、褥瘡対策、ベッドサイドリハビリテーションなど様々なチームと連携した支援や、多職種カンファレンスを通じた多角的視点での方針検討を行い、日々、より質の高い看護の提供を目指して取り組んでいます。また、超高齢社会に伴い認知症の患者さまも増加していますが、認知症看護認定看護師を中心に、患者さまの身の回りの環境を整え、慣れない入院生活の中でも少しでも穏やかに過ごせるよう支援を行っています。今後も、患者さん1人1人が安心して入院生活を送り、笑顔で退院・転院できるよう治療・看護に対する研鑽を重ね、明るく・笑顔で・チームワークを大切に、日々誠実に向き合う姿勢を忘れず、スタッフ全員で尽力していきたいと思えます。

（文責：東5階病棟看護師長 今吉 弥生）



▲嚥下回診



▲患者様との関わり



▲病棟内リハビリ風景

新任
紹介



心臓血管外科

山下 雄史

2021年7月より心臓血管外科に赴任致しました山下雄史と申します。初期臨床研修でお世話になって以来約6年ぶりの医療センターでの勤務となります。以前お世話になった先生方やメディカルのスタッフの方々とまた仕事ができることをとても嬉しく思っております。まだまだ未熟な点が多く、至らぬ点が多々あるとは思いますが、日々精進していきたく思いますので御指導御鞭撻の程よろしくお願いたします。



■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <https://kagomc.hosp.go.jp/>

【地域連携】 箇田・西田・中本・篠崎・迫田・椎原・出口・石原・吉留・馬場・櫻木・田辺・池野・宮崎

【がん相談】 松崎・新川・水元・原田・菊永・杉本

地域連携室専用 FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

